

北千住からバスで20分ほど行った足立区六町。ここには来年、常磐新線の新しい駅ができる。そのため数年前から区画整理が進み、事業用地として買い上げられた土地700坪が、ずっと放置されていたという。草はほうほうで、ゴミもたくさん捨てられていた。そのたびに住民から区に苦情が寄せられ、区が清掃する。その繰り返しで、その管理に年間約60万円が費やされていったという。

この近くに住んでいた平田裕之さんは、アメリカでラフティングのガイドをやったり、野外教育を行うNPOに参加したりするうちに、川から森、そして日本の樹に関心を持ち、2年かけて日本中の巨木を訪ねて歩いた経験があった。巨木を巡る旅は、環境破壊の現場を巡る旅でもあったという。緑と土と水、その関係の大切さに気づくとともに、根があるからこそ樹が生きていられるように、自分も足元から地球環境を考えることが大事だと思いついたという。

この平田さんと土地との出会いが、足立グリーンプロジェクトの発端となった。平田さんが区にかけあい、**ヒートアイランド対策**としてこの場所を利用する許可がおりたのが2年前。しかし、菜園にすることが決まっているだけ

で、草が生い茂る広い土地を目の前にして、「いったい草を刈るだけでもどのくらいかかるのか……」と、ちょっと茫然とした気持ちだったという。「それが、作業に取りかかったら、人が集まってきて、どんどん手伝ってくれるんです。「なにしているの?」「菜園つくるんですよ」「私も参加できるのかな」「申し込みはどうするの?」という感じで、ほとんど**ロミ**で菜園の56の区画が、1週間で埋まってしまいました」。

ここが、よくある区民農園と違うのは、「エコ」であること。大きな目的が、都市のヒートアイランド現象を少しでも軽減することだから、生長が早く、葉が茂るキウイ棚が作られている。また、参加する人はエコボランティアとして登録し、自分の畑には自分の家の生ゴミを堆肥にしたものを撒き、無農薬で野菜を育てている。「ピオトープもあるの、そちらの虫が畑に來たりして……。駆除する青虫もあるんですけど、キアゲハの幼虫だけは、殺さないで隔離して、育てているんですよ」。オオカマキリやガマガエル、アオダイショウまで現れる。「いったいどこから来るんでしょうね」とメンバーたちは不思議そう、東京にもそうした生き物がいることに驚かされる。

Keyword 2
Slowfood

菜園が、ヒートアイランドを解消をする!?



足立グリーンプロジェクト

7年間、空き地として放置されていた700坪の土地。ここを、都市のヒートアイランド現象を食い止めるためのひとつの解答として菜園に利用しているNPOが足立グリーンプロジェクトだ。彼らの試みも3年目。この動きは、広がっていく予感に満ちている。



足立グリーンプロジェクト

生活者ひとりひとりが「足元から考えるエコ活動」を實踐できる環境を提供することを目的としたNPO。活動の拠点である六町エコプラザでは、足元から地球環境を考える仕掛けとして、環境問題が「見える」「学べる」「手が出せる」というコンセプトを掲げ、身近で楽しい活動の場を提供している。
<http://www.greenproject.net>

最初は、ただ土いじりがしくて集まってきた人たちも、平田さんと接するうちに「エコ」意識が芽生えてきた。今年の猛暑でも、みんな毎日のようにこの菜園を訪れていた。「ここにいるとすーっと風が通って、気持ちいいんですよ。それに、**昼間はここに**いるから家の電気も使わな

いでしょ。これもエコだよ、ね、って言ってるんですよ」と口々に語ってくれた。実際、この夏計測したところによると、周囲よりも1度から3度、気温が低かったという。ここは、将来的には再開発される場所だから、足立グリーンプロジェクトは1年ごとに区と契約するシステムになっている。土地の暫定利用だ。それは活動を行ううえで不利ではないのだろうか。「いえ、逆にこうした試みは暫定利用でいいと思うんです。暫定だから活用できる、という場合も

あります。もしそこでの利用が終わったら、また次を探せばいいんですよ。そうすれば、こうしたスタイルを目にする人も増えて、自分の近くでも同じようなことをやりたい、と考える人が増えるんじゃないですか」。あなたの近くに、遊んでいる土地はありますか? 2005年は、その土地を「緑」でいっぱいに見ませんか?